

安平町北海道胆振東部地震検証報告の公表にあたり

平成30年9月6日3時7分に発生した平成30年北海道胆振東部地震から3年半の月日が経ちました。

胆振地方中東部を震源としたこの地震は、北海道で観測史上初めての震度7を記録し、大規模な土砂災害や家屋の倒壊などにより、多くの尊い命が失われました。改めまして、犠牲になられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被災されたすべての方々に心よりお見舞い申し上げます。

本地震では、全道で16,649名もの方々が避難生活を余儀なくされたほか、北海道が広範囲にわたり停電となった国内初の「ブラックアウト」が発生するなど、道内のほぼ全域が被害を受けました。

そして、安平町においては震度6強を観測。多くの町民が被災しました。幸いにも死亡者はいなかったものの、重傷者等の人的被害や9割以上の住宅が損壊するほか、公共施設や地域経済が甚大な被害を受け、多くの被災者が応急仮設住宅等での不便な生活を余儀なくされ、発災後の翌年「あびら力を結集した未来へつながる復興を目指して」をテーマとした復興計画を策定。まもなく終期を迎え、次の復興計画は「第2次安平町総合計画 後期基本計画」に移行をすることとなります。

この検証は、災害応急対応から復興期までを対象とし、記録の整理、専門調査・検証を行い、第三者機関による諮問・提言を経て公表する運びとなりました。

この報告書は、各専門チームにより作成された2部により構成されています。

安平町生活復興調査 調査チームによる「生活復興調査」「行政職員ヒアリング」「中学生アンケート」「関連組織ヒアリング」から導き出した「検証結果と提言」。

安平町と北海道立総合研究機構による「災害対応記録」等から導き出した「対応記録報告書」。

特に生活復興調査は、豊富な知見を有した専門家による過去の災害との比較を通して、震災から3年間の生活復興の様子について科学的記述を試みています。

この検証結果により、震災前より元気で魅力的な安平町の復興に向けて取り組みを進めるとともに、本書が、全国の防災・減災への取り組みの一助となれば幸いです。

令和4年4月

安平町長 及川 秀一郎
安平町胆振東部地震検証本部会
北海道立総合研究機構
安平町生活復興調査 調査チーム

新潟大学危機管理室 教授 田村 圭子
兵庫県立大学環境人間学部 教授 木村 玲 欧
富山大学学術研究部都市デザイン系 准教授 井ノ口 宗成